

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	福祉医療費					
担 当 課 係 名	市 民 課		国保年金 係		作成者	佐川 由紀子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち				総合計画の ページ
	基本計画	障害者福祉の充実と社会参加の促進				
	主要施策	生活を支援するための福祉サービスの充実				56
予 算 費 目	一 般 会 計	3 款 民 生 費	1 項 社 会 福 祉 費	8 目 医 療 給 付 費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市福祉医療費支給要綱					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	乳幼児、ひとり親の世帯の児童、障害者の自己負担分の医療費
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	自己負担分の医療費を助成する
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	県内受診は現物給付、県外受診は現金給付

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	医療費助成対象者数	目標					
			実績	人	3,582	3,746	3,457	
			達成度	%				
	成果指標	年間受診件数	目標					
			実績	件	68,279	68,729	68,035	
			達成度	%				
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				190,510	193,918	188,189	
	人 件 費 (B)		—		7,853	8,071	7,925	
	職 員 数		—		1.00	1.00	1.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				198,363	201,989	196,114	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金				93,064	104,154	87,332
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				105,299	97,835	108,782
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		55,378	53,921	56,730
市民1人当たりのコスト(円)		—		6,220	6,425	6,317		

【事務事業の今までの成果】

乳幼児、ひとり親家庭の児童、高齢身体障害者及び重度心身障害（児）者の一部負担金を助成することで、心身の健康の保持と生活の安定に寄与している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県内では独自の助成を行っている自治体もある。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	仙北市は秋田県の指導の下に事業を行っていて、乳幼児に関しては、所得制限を撤廃して助成している。そのほかの強い要望は特にはない。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	仙北市は秋田県の指導の下に事業を行っていて、乳幼児に関しては、所得制限を撤廃して助成している。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	引き続き継続すべき事業と考えますが、「支給対象者の生活の安定を図る」との事業趣旨から考えると所得制限を設けることには一定の合理性が認められるところであり、所得制限の導入について検討の余地があると考えます。

一次評価診断図

